

Wikiで社内の情報共有

～ウノウでの活用事例～

自己紹介

自己紹介

新井啓太

- ウノウ株式会社所属
- 最高記述責任者
(WikiやBlogを管理する人)
- PHPer = PHPを使う人

自己紹介

ウノウのサービスについて

- フォト蔵 (<http://photozou.jp/>)
- 映画生活 (<http://www.eigaseikatu.com/>)
- ビデオポップ (<http://vpop.jp/>)
- ウノウラボ(<http://labs.unoh.net/>)
- and more....

自己紹介

ウノウラボ

- エンジニアが持ち回りで書く
- 3回に1回は、はてブのホットエントリーに
- はてブ100件で本一冊分くらい

自己紹介

社内で利用している共有ツール

- ML(メーリス) -> mailman
- Social Bookmark -> 手作り
- 社内Blog -> WordPress
- BTS -> trac, 影舞
- Wiki -> PukiWiki
- ほしくなったら探す。なかったら作る(れる)会社

自己紹介

その他の特徴

- 社員20人～
- フリーアドレス
- ペーパーレス
- 平坦な人間関係

自己紹介

- Web 2.0系企業

※未承諾

- 社員募集中！（エンジニア！！）
- とともに、Wiki番長に

自己紹介終わり

第一部 社内Wikiで期待した効果

企業におけるWikiの2つの役割

2種類に分別

- 社外向けCMSとして
(フォト蔵Helpなど…)
- 社内情報の蓄積の場としてのWiki

社外向けにCMSとしてのWiki

CMS=Contents Management Systemの略
Webページを、システムで管理する仕組み

- Wiki書式だから書き込みやすい
- 履歴管理
- コスト面

社内情報の蓄積としてのWiki

- プロダクトのまとめ
- 社内情報のまとめ
- 議事録
- あらゆる、Web系のツールの代用品

社内情報をWikiで行うメリット

- MLの情報は残らない
(アーカイブはあるが..)
- Blogも流れがち
- Wikiだと残る
- 情報の寿命が違うのでこの3つは共存できる

期待した効果

- 社外向けには、ホームページ作成ツールとして
- 社内向けには、情報教養ツールの一つとして

第一部終わり

第二部 ウノウでの活用事例 (社内向けWikiの場合)

ウノウでの構成

- ソフトウェアにはPukiWikiを採用
- 社内用には2種類
 - 一般スタッフ用、社員専用
- 認証はBASIC認証のみ

PukiWikiについて

- PHP + YukiWiki(Perl) = PukiWiki
- 2001生まれ
- PHPなのに奇跡の安定 && 読みやすいコード
- PHP4およびPHP5で利用可能
- 開発が活発
- 日本のOSS会ではデファクトに近い

PukiWikiの採用理由

他のWikiと比べて…

- MediaWikiや、KinoWikiと比べて
- MediaWikiのほうが機能は多かったがその分複雑だった。
- KinoWikiのほうがソースは綺麗だったが、機能が少し少なかった。

とはいえ、これら使ってもよかった

PukiWikiの採用理由

- PukiWiki書式だった
- PukiWikiのソースに慣れている人間がウノウには多かった。
- 日本だとやっぱり使ってる人が多い
- 拡張が簡単だった
- なれの問題

Wiki書式の方言について

- 一口にWiki書式といっても、実装によってまちまち
- どれが優れてるとかではなく実装が違うだけ
- 日本人は、PukiWiki書式を触る人が多い
PukiWiki書式を変換するライブラリが各言語でも出てる。(pukipa.rbなど…)

PukiWikiを拡張

- 実はほとんど必要ない
- やってみるとすごく簡単
- 外部リンクは、リファラが残らないように
- 認証をフォト蔵の認証に変更など

Wikiでありそうな問題点

- だれでも書き込めるがゆえの問題
- スクリプト自体のセキュリティ問題
- Webサーバにかかる負荷
- 誰も書き込んでくれない
- 誰も読んでくれない
- 情報がばらばらになる

だれでも書き込めるがゆえの問題

- 誰でも書き込める = 誰でも消せる
- 基本的に社内なので問題はない
- 退職時に全部削除とか・・・
- アクセス制限を掛けたところに定期的に振るバックアップ

セキュリティの問題

- 実際は、たまに出てくる
- JVN#465742E4(添付ファイルによるXSS)
- JVN#98836916(DiffによるDoSの問題)
- ただし、BASIC認証かけてるのでそう問題は大きくはない
- リファラを外部のサイトへ漏らさないように注意する

負荷について

- PukiWikiは、去年くらいに大幅な改良をおこない相当軽い
- 100人規模くらいは大丈夫
- どうしても問題があったらファイルのミラーなどにより対応可能

誰も読んでくれない書いてくれない

- とても寂しい
- 書く文化 ・ 読む文化を創る必要がある

書く文化を創る

- ルーチンワークに、Wikiの記述を含める
週報、勤務関係の報告書など
- 重要な情報はWord文書じゃなくWikiに
社則や、議事録、運用ルールなど
とにかくWikiに乗せるという文化を創る
- 時には、ちょっとふざけた内容のことも

書く文化を創る

- 社員が書き込んだら、必ずなんらかの反応をする
- 可能な限りほめる
- とにかくほめる

読む文化を創る

- トップに各項目のショートカットを作るなど
- 読みたくなる情報を書いておく
飲み会情報や、おいしいお店など
- 読みやすくする
- 情報を綺麗にまとめる

情報を綺麗にまとめるには

- Wikiの管理者が必要
- 権限を持って、整理整頓をする
- 会社として後から入ってきた人に対しても入りやすいようコミュニティの形成
- 書き込みやすい雰囲気＝コミュニティの形成
- つまりほめる人が必要

情報を綺麗にまとめる人は

- 空気読まないほうがいい
- ウノウでは、最高記述責任者が担当=私
- 私は空気よめない

社長！〇〇の記述が読みにくいです！
直しておきました！！

全ファイルを階層的にしました！！

〇〇の運用ルールを作りました守ってください

実際発生したメリット

- ほぼ完全ペーパーレス
(飲み会の場所の地図くらいしか印刷しない)
- 必ず情報がおいてある状態に
- Wordを使う人が減った
- Windows使わない人が増えた
- 議事録を、Wikiにリアルタイムで書くので、タイムラグなし。

実際発生したデメリット

- Macを使う人が、
「Macいいよ！！」
ってうるさい。
でかい顔される。
Linuxも使ってもいいよ！

なんでそうなったかというと

- HTMLがゆえにクライアントに依存しない
- サーバに乗せてしまうので基本的にバックアップは気にしなくてよい

第二部終わり

第三部 活用事例

(ウノウ以外も含めたCMSとして)

CMSとしてのWiki

- そもそも、CMSの専用ツールじゃない
- しかし、簡単なカスタマイズもしくは無改造でWebサイトとして公開できるものができる
- PukiWiki書式が使える
- 履歴管理がある
- XoopsにPukiWiki組み込んだものもある
- ここまで来るとWiki思想とは関係ない

CMSとしてのWiki

- コストが安い
- 運用コストも現状は安くあがっている
- 編集者用にFTPやSCPなど、転送ソフトウェアを別途用意しなくていい

CMSとしての実際

- 不可分散に難があるが運用カバー可能
- CMSではないので100点満点のツールじゃない
- でも、他の専用CMSツールに習熟が必要なことを考えると簡単な分拡張しやすいので実際に使う機能としてはとんとん
- URLがちょっとダサい

フォト蔵ヘルプな事例

フォト蔵ヘルプ(<http://photozou.jp/help/>)

- ユーザには書き込ませない(現状は)
- 認証はフォト蔵のものを利用

ただしソースコード的には結合してない

その他にもいろいろ

デザインもそれなりに変更できる

- <http://photozou.jp/help/>
- <http://ja.poderosa.org/>
- <http://ethna.jp/>

(実演)

結論として

- 専用ツールほどじゃない
- Wiki的につかいたいならいかも

第三部 CMS終わり

第四部 まとめ

まとめ

- 考えてみるとシステムより運用が大切
- 社内でWikiを運用する時も、コミュニティの形成が重要
- Wikiにはモデレーターが必要
- CMSとしては100点のツールではないが便利
- Wiki書式は使いやすい

第四部 まとめ終わり

第五部 Wiki書式が使いやすい？

Wiki書式は何が いいか

- 普通の人 は、HTMLをデザインと意味の分離をすることは難しい
- Wiki書式は自然とできる

(Wiki書式の実演)

Wiki書式は何が いいか

そもそも、将来的にはHTMLを出力しなくてもいいかも

- PDF
- Flash Pepar
- Postscript

・・・拡張性が高い

Web2.0 ?

- データに対して、クライアントが依存しない
というのはわりとWeb2.0 or later的
- もちろんデータをWebにおけるのもそう。
- というわけで、WikiはWeb2.0 or later的
- そもそも今回話さなかったWiki思想自体
が、とてもWeb2.0的です。

第五部 おわり